

鼻出血症

原因と症状

- ・ 鼻の中は粘膜でおおわれていますが、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎があると粘膜に傷がつきやすく、その下にある血管も破れやすくなって鼻出血が起きます。
- ・ 出血の多くは鼻の入り口近くの真ん中のしきい(鼻中隔)からで、キーゼルバツハ部位といわれ、毛細血管がたくさん集まっていて出血しやすくなっています。
- ・ 顔を洗った時など小鼻を触るだけで鼻の中の粘膜が擦れ出血します。
- ・ また、高血圧や動脈硬化などの合併症がある場合、血管が脆くなっていることが多く圧迫困難な場所(鼻の後方や下方など)からの大量出血を起こすことがあります。

家庭で注意すること

- ・ 出血した場合はまず圧迫止血を試みます。
- ・ 横にならず椅子に座って軽く下を向きましょう。落ち着いて小鼻をつまみ、両脇から10～15分強めに圧迫をします。ほとんどの場合この方法で止まります。
- ・ 横になると血液がのどにまわって飲み込んでしまい、吐き気や嘔吐の原因になります。もし口の中に血液がまわってきた場合は吐き出すようにしましょう。
- ・ お子さんの場合10分圧迫をするのは難しいと思いますが、できるだけ長く圧迫をしましょう。

治療

- ・ 圧迫止血を行い止血しても出血を繰り返す場合は診療時間内にお近くの耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・ 止血できない場合は急患センターを受診してください。出血の状態によって粘膜の電気凝固やガーゼによる圧迫を行うことがあります。
- ・ ただし、急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00～18:00)のみですので、その時間以外の場合は市民病院か大学病院に相談してください。

救急車を呼ぶめやす

- ・ 出血が激しく、圧迫をしても両側の鼻や口から血が出てくる場合は救急車を呼びましょう。
- ・ 意識が朦朧としている場合や外傷による出血の場合には、手術や入院が必要になることがあるため、市民病院や大学病院などでの治療が必要になります。
- ・ 急患センターの耳鼻科外来は日曜祝日、年末年始、GWの昼間(9時～18時)のみです。